

一般社団法人日本映像アーキビスト協会 2023 年度事業報告書

2023 年度の当協会の事業等について報告いたします。

1. 映像アーカイブに関する調査研究

● 公式ホームページの充実とコミュニケーションツールを用いた交流の試行

- (1) 各研究会(分科会)⇒コミュニケーションツールである Microsoft Teams が制約のなかった「クラシック」から、制約のある無料版となった中で、どの様に各会員が自発的に各種研究会を発足、運営可能とすべく活動を行えるか模索する。すでに開設している研究会に加え、映画保存に関する技術的なノウハウやベストプラクティスについて共有を行う研究会や、日本における映画・映像保存法成立の可能性を考える勉強会を行うコミュニティ等の発足を検討。

本年度も、コロナ禍後の生活様式の変化により、事業全体をウェブ中心に展開した。公式コミュニケーションツール Microsoft Teams を活用しているが、2023 年 4 月 12 日の無料版(クラシック)終了に伴い、新無料版に移行した。協会全体のグループチャットは開設した。無料版(クラシック)に比べ、新無料版は制約が多いため、コミュニティ設立等の活発的な動きが出来なかったが、2024 年 1 月 3 日にオンライン「新年のあいさつ会」を行った。2024 年度は松の内以降の開催を試したい。

Teams 上で「映像アーカイブ機関・関連事業を行っている組織リスト」を理事だけでなく、会員と共に作成する試みを行ったが、反応がなかった。会員のニーズを見極める方策が必要だった。

なお、本年度は新規の研究会や勉強会を発足させるには至らなかった。

- (2) オーラルヒストリー⇒本年度も当会もしくは会員が関わるイベント等の採録・公開を行う。また、映像アーカイブに携わる人々のオーラルヒストリーについては現在、対象者の検討を行っており、本年度から本格的にインタビューを始める。

本年度もコロナの影響により、対面形式の新たなインタビューの実施が難しかったため、開催にあたって協力した「映画の復元と保存に関するワークショップ 2021」の講演採録の作業を継続した。

- (3) 「ヒアリングによる日本タイミング史」のプロジェクトの協力、協会ホームページへの掲載

会員の郷田真理子さんによる「『現像所技術者に聞く 一日本タイミング技術史をまとめる試みー』」の第 2 回を 2023 年 10 月 21 日に掲載した。第 3 回掲載に向け、編集中である。

- **セミナー、ワークショップの企画と実施の検討**

国立映画アーカイブ相模原分館の見学会と同館シアターでの『映画の箱舟』(同館保存庫棟Ⅱの建設記録映画)の研究試写を2023年10月11日に開催した。また、2024年2月17日に「公開当時のフィルムの色を考える」というテーマの試写付き勉強会を開催(こちらは「3.映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力」の項目で報告)。

尚、当初計画はしていなかったが、定期懇親会を2023年9月13日と12月8日に開催した。会員の親睦のみならず、会員が同僚の方を連れてきていただき、会員の勧誘に成功するなど、開催の意義は大きかった。

- **アーカイブ・ツーリズムの企画と実施の検討**

本年度は2023年6月10日開催の「JAM2023」に合わせ、同日のプレ企画として、「映画にみる関東大震災の被災地のいまと日本映画史ゆかりの場をめぐる映像アーキビストの遠足」を実施した。

2. 映像の文化的、芸術的、歴史的及び教育的価値に対する社会的認識ならびに関心の向上促進

- **基金設置を含めたファンドレイジングの方法の調査と検討**

本年度もファンドレイジングに関する調査や検討を行うことができなかった。

3. 映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力

- **IMAGICA-EMSとの共催で行った2022年の勉強会「映画フィルムを後世に伝えるために今できること―再発見するリリースプリントの価値―」を更に発展させるための方策を検討。**

2024年2月17日に「映画の色を考えるーヴィンテージプリントの魅力」というテーマで、IMAGICA エンタテインメントメディアサービス(IMAGICA EMS)の協力を得て、勉強会を行った。今回は1985年のプリントに焦点を当て、講師として元IMAGICAのベテランタイマー鈴木美康氏を迎え、当時のフィルムの特性の解説とともに国立映画アーカイブの特別映写観覧制度を利用して、参考試写を行なった。また、IMAGICA EMSの井上大助氏、松尾好洋氏によるヴィンテージプリントのクリーニングシステムに関しての解説があった。イベント実施後の参加者アンケートで非常に好評だったため、今後もこのような試写付き勉強会は継続して行う予定。

- **日本版 CNC 設立を求める会(action4cinema「a4c」)との間で、映画振興と映画保存に関する公開討論会の開催を検討する。**

公開討論会は行えなかったが、代表理事による「フランス CNC における映画遺産の保存と活用について」のプレゼンに続き、参加した a4c メンバーと理事との間で、日本の状況に関する意見交換を行った。

4. 映像アーカイブ、及び映像アーキビストの認知向上を目指す広報活動

- ホームページ、Twitter を活用し、映像アーカイブの重要性、映像アーキビストの社会的認知を図る。非会員に向けたイベント開催も模索

ホームページ、Twitter の活用を行った。非会員に向けたイベントは昨年度の開催はできなかった。

5. 2023 年度定時総会の開催

本年度もコロナ禍後の影響と実務時間短縮のため、オンラインによる総会開催(2023 年 6 月 8 日)としたが、総会では、オンライン開催に関する定款変更、ならびに理事及び監事の選任、前年度の貸借対照表、損益計算書及び監査報告書の承認を得た。

また、6 月 10 日にはイベント「JAMIA Annual Meeting 2023」(略称 JAM2023)を対面とオンラインのハイブリッド開催し、数藤雅彦弁護士による「著作権と映像アーカイブ」に関するご講演、参加者とともに「映像アーカイブこの 1 年」と題し、情報交換を行った。参加者は、15 名(対面)、4 名(オンライン)、計 19 名だった。

一般社団法人日本映像アーキビスト協会 2024 年度事業計画書

1. 映像アーカイブに関する調査研究～

● 「JAM2024」の企画と実施

昨年度に引き続き、今年度も定時総会の議決結果の報告に続き、イベント「JAM2024」を開催する。今年度は慶応義塾大学アートセンターとの共催により、慶応三田キャンパスを会場とする。また、今年度より、会員限定ではなく、非会員も対象とした公開イベントとし、非会員の参加は有料とする一方、本イベントをきっかけに入会への勧誘を行う。

イベントは、映像アーカイブのベーシックスを学ぶレクチャー、フィルムから AI まで映像アーカイブの現在と未来を考えるセッション、ならびにライトニングトークによって構成し、今後会員による分科会や一般公開による研究会へと発展するための萌芽と位置づける。また、懇親会を含め、映像アーキビストによる交流の場とする。

● 公式ホームページの充実とメッセージプラットフォームを用いた交流の試行

(1) オーラルヒストリー⇒本年度も当会もしくは会員が関わるイベント等の採録・公開を行う。また、映像アーカイブに携わる人々のオーラルヒストリーについては対象者の検討を行ない、順次インタビューに着手する。

(2) 「ヒアリングによる日本タイミング史」のプロジェクトの協力、協会ホームページへの掲載⇒会員の郷田真理子さんによる『「現像所技術者に聞く 一日本タイミング技術史をまとめる試みー』に、引き続き協力、ホームページへの掲載を行う。

● アーカイブ・ツーリズムの企画と実施

映像アーカイブ活動の現場や映像アーカイブと重要な関わりを持つ場所を視察し、活動に携わる映像アーキビストや関係者との交流を図るために、昨年度に引き続き、アーカイブ・ツーリズムを企画・実施する。

● 映像アーカイブの手法や事例の調査研究と情報共有

国内外における、映画だけではなく映像全般のアーカイブの技術と事例を広く調査し、情報共有する。

2. 映像の文化的、芸術的、歴史的及び教育的価値に対する社会的認識ならびに関心の向上促進

● 基金設置を含めたファンドレイジングの方法の調査

当法人による基金設置を含め、映像アーカイブ活動の立ち上げと継続を支えるためのファンディングとして、公的支援やメセナ等の民間支援の可能性を探るために、引き続き情報収集を行う。

3. 映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力

● 2023 度は IMAGICA EMS の協力を得て、ヴィンテージプリントの重要性を考える試写付き

勉強会を行ったが、2024 年度も引き続き、映画フィルムを後世に伝えるための方策を検討するラボやフィルム技術者を講師に招いての試写付き勉強会も継続する。会員向けのクローズドの勉強会だけでなく、一般公開イベントでも、リリースプリントの重要性への認知を広めるための一般公開イベントを企画する。

4. 映像アーカイブ、及び映像アーキビストの認知向上を目指す広報活動

- ホームページ、X(旧 Twitter)を活用し、映像アーカイブの重要性、映像アーキビストの社会的認知を図る。非会員に向けたイベント開催も模索。

5. 2024 年度定時総会の開催

- 2024 年度定時総会を開催する。なお、今年度もコロナ禍後の影響と実務時間短縮のため、従前の通り、オンラインによる総会開催とする。

以上